

第1回 千川・タイム 回答



問1

自転車用ヘルメットの正しいかぶり方は、どれでしょう？



② (○)
あごとひもとの間に指が1本入るくらいに調整をして、かぶる。

ヘルメットをかぶるときは、次のことに気をつけましょう。

- 1 自分の頭の大きさに合ったものを選ぶ、または、アジャスターで大きさを調整する
- 2 あごとひもは、あごとひもとの間に指が1本入るくらいに調整をする
- 3 水平になるように、おでこまでしっかりと深くかぶる
- 4 ヘルメットをかぶったときに、グラグラと動かない

交通事故で亡くなられた方の多くが頭を怪我して亡くなっています。ヘルメットは、交通事故や転倒などから大切な頭を守ってくれるものです。

面倒と思わずに、また、ヘルメットが小さくなってしまっても、自分の頭の大きさに合う新しいヘルメットを用意して、必ずヘルメットをかぶりましょう。

問2

自転車の交通ルールとは…？()内の正しいと思うものに○をつけましょう。

自転車は『軽車両』といって、(人 ・ 車) の仲間です。
このため、道路標識は (人 ・ 車) に対するものに従い、交通ルールを守らなければなりません。

小さな故障でも、大きな事故に (つながります ・ つながりません) 。
故障がわかるように、自転車の主な部分の名称や役割を知ることが (必要です ・ 必要ありません) 。

故障があるときには、簡単な整備や修理ができるようにしておくほか、自転車安全整備店で点検・整備や修理をしてもらい、安全な自転車に乗りましょう。

交通事故にあうと、悪いことをした気持ちになってしまったり、どうしてよいかわからず、何も言わずにその場から立ち去ってしまう人がいます。

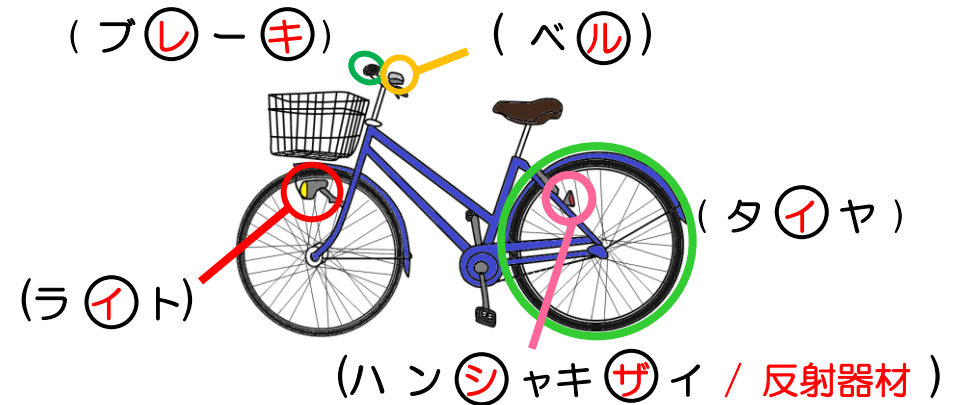
交通事故の場合は (必ず ・ 怪我をしたときだけ) 、 (その場で ・ 家で) 110番通報し、警察に交通事故の届出をしましょう。

相手には (必ず ・ 怪我をしたときだけ) 氏名と連絡先を伝えましょう。
相手が怪我をしていて、道路上で動けないときや、後から来た車などがさらに交通事故を起こしてしまうようなときは、すぐに周りの人を呼びなどしましょう。
また、(必ず ・ 怪我をしたときだけ) 、事故のことを家族に話しましょう。

※ 交通事故に遭った場合は、自分の氏名や連絡先を相手に伝えること、必ず現場から警察に通報すること、保護者に必ず事故のことを話しておくことなど、基本的な措置について指導をお願いします。

問3

自転車に乗る前に行う点検について、点検箇所はどこでしょう？



ブレーキ： ブレーキは自転車を手で押しながら、左右別々にブレーキをかけて、それぞれのブレーキが効くか確かめましょう。
ブレーキの遊びが大きすぎたり、小さすぎたりしないよう調整しましょう。

ベル： よく鳴るか、適当な位置（ハンドルから手を離さなくても鳴らせる位置）にあるか確かめましょう。
ベル（警音器）は、前を歩く歩行者を退けるために鳴らすのではなく、見通しの悪い場所などで、危険を知らせるためやむを得ない場合などに使用しましょう。

タイヤ： 適度に空気が入っているか（両手の親指で押ししてみて、少しへこむくらいがちょうど良い）、溝がすり減りすぎていないか確認しましょう。

ライト： 電球が切れていないか、照射方向は正しいか、夜間において（神奈川県では前方5メートルの）障害物等を確認することができる光度かなどを確認しましょう。

反射器材： 割れていたり、汚れていないか、後方（100m）からライトをあてたとき、きちんと反射するかなど確認しましょう。